

(別紙5)

補助事業番号 28-1-118  
補助事業名 平成28年度 地域ふれあい交流活動 補助事業  
補助事業者名 仙台市立郡山中学校

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

本事業では、中学生が地域創生の核となり、中学生が地域を巻き込む教育活動を展開し、地域コミュニティの新たな構築を模索して持続可能な地域の担い手を育てることを目的とする。その際、地域の防災力向上や地域の安全安心な町づくりは学校と地域の共通する達成目標であることから、防災教育とその訓練を礎に学校と地域が協働して事業を展開する。このことは、生徒や住民が関わりと絆を強めることにつながり、地域コミュニティ形成に波及・寄与できるものとする。さらには、生徒は“支えられる人”から“支える人、支え合う人”へと心と姿勢を変容させ、未来社会を担う人間性を培うことも望める事業であるとする。

(2) 実施内容

本校のHP(URL <http://www.sendai-c.ed.jp/~koriyama/>)

① 中学生が主導する住民参加型の地域防災訓練

本実践は、中学3年生が避難所開設・運営、集団避難誘導、救急救護、炊き出し調理、取材報道、災害対策本部の6班を担い、住民参加型の地域防災訓練を実行するものである。避難者役は、中学1・2年生や地域住民、小学生などである。本実践には、町内会をはじめ婦人防火クラブ、消防団、社会福祉協議会、民生委員など、様々な地域組織が3年生の活動班を分担支援し、地域を巻き込む取組である。



避難所運営



炊き出し調理と配給



(別紙5)

② 生徒会が司会・進行など主体となって開催する防災教育シンポジウム

本シンポジウムでは、生徒会が司会や進行を担い、開閉会のあいさつを行う。そして、大学教授の講演や取材報道班による取材結果と各訓練班の活動を紹介し、最後に教育委員会の防災訓練などの指導講評を行う。視聴者は本校生徒と地域住民などである。



大学教授の講演



生徒の質疑・応答



取材報道班の報告

③ 1年生が津波被災農家に弟子入り体験

1年生・約200人が、仙台市沿岸部の津波被災地で農業を営む方々を支援するため、9月13日に被災地を視察し、その後に綿花畑の除草作業を行っている。大震災前は広大な水田地帯であったものの、津波の塩害が残る中、稲作に変わり手作業で綿花を栽培している。生徒たちは小雨が降るにも関わらず、懸命に除草作業に取り組んでいた。



被災地を視察し慰霊塔で祈り



津波被災農家にて綿花畑の除草作業



④ 2年生が津波被災地の視察と中学生との交流

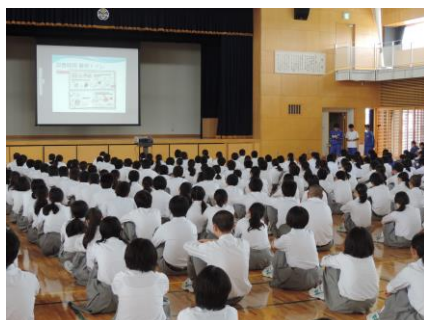
2年生・約200人が、県南部の沿岸部で津波により被災した地域と中学校を9月13日に訪問している。生徒は、語り部さんの案内で説明を聞きながら被災地を視察し、津波被災で高床式の新校舎で学んでいる中学生と交流活動を行っている。交流では、互いの学校の紹介や防災学習の成果発表を行い、両校生徒が人文字「ガンバロウ」を制作している。



(別紙5)



津波被災の学校を視察



津波被災の中学校にて交流活動(ガンバロウ人文字)



⑤ 生徒会が各種大会にて防災教育の成果を発信

生徒会がボランティアスピリットアワード2016にて北海道・東北ブロック賞を受賞し、ブロック大会と全国大会に出場して本実践の成果を発表している。また、生徒会はユネスコスクール東北大会にて本実践成果を発表し、本大会の実践大賞に輝いている。



ボランティアスピリットアワード



ユネスコスクール東北大会

⑥ 教員が「防災教育チャレンジプラン」や「ぼうさい甲子園」にて実践成果を発信

教員が、内閣府等が主催する「防災教育チャレンジプラン」や兵庫県等が主催する「ぼうさい甲子園」にて本実践を全国に発信している。ぼうさい甲子園では、被災地で取り組む防災教育を応援する“はばタン賞”に入賞している。



(別紙5)

2 予想される事業実施効果

- (1) 本校が地域防災訓練を毎年実施することで、地域の防災力と防災意識を年々高められる。また、中学生は防災・減災の知識やスキルと防災対応能力を培い、自助と共助の術を習得でき、将来の地域防災を担う人材が育成される。さらに、本校の防災教育では、習得者が毎年卒業することで増員され、確実に地域防災力を向上させ、安全・安心な地域づくりに資することができる。
- (2) 学校と地域が防災教育を組織的に実践展開し、学校と地域の共通目標である地域防災力の向上と安全・安心な地域づくりに波及・寄与できる。さらに、両者の連合体が連携・協働することにより、共通目標の達成度をさらに確実に高めることができる。
- (3) 本校の防災教育では、中学生が大震災の現実とその復興を知り、教訓を学び継承できる。そして、中学生が主体的に復興支援に取り組むことは、持続可能な社会づくりを担う人材を育むことに繋がる。
- (4) 中学生や住民が共に防災教育を学ぶ教育実践では、教員・生徒・住民の関わりと繋がりが深められて絆が生まれ、地域社会が抱える様々な課題の解決を図ることが可能となる。
- (5) 本校の防災教育では、生徒が“支えられる人”から“支える人、支え合う人”へ心と姿勢を変容させ、様々な人々と共助の心を通い合わせる、心豊かな人間性を育まれる。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの



〈 目 次 〉	
1. はじめに	P 1
(1) 防災教育のねらい	P 2
(2) 平成28年度の教育計画	P 2
2. 津波被災地への支援活動	P 3
(1) 大震災当時の活動	P 3
(2) 平成27年度・津波被災地への継続支援	P 3
(3) 平成28年度「津波被災地に弟子入り体験」	P 3
(4) 平成28年度・津波被災地の視察と中学生との交流	P 4
3. 地域への奉仕活動	P 5
4. 地域や行政、小学校との協働と連携	P 6
(1) 地域や行政等との防災会議	P 6
(2) 小・中連携推進のための合同研修会	P 6
5. 大震災の教訓を継承し実践活動	P 7
(1) 故郷復興プロジェクトを毎年3月に実施	P 7
(2) 集団避難訓練と集団下校訓練を継続実施	P 7
(3) 津波被災農家の講演	P 8
6. 防災教育の成果を外部発信	P 9
(1) ボランティア・フェスティバルにて成果発信	P 9
(2) エネスタール東北大会にて成果発信	P 9
(3) 大沢の中学校が来校してエネスタール間交流	P 9
(4) 防災教育チャレンジプランにて本校教員が成果発表	P 10
7. 中学生が主導する地域防災訓練と防災教育	P 10
(1) 地域防災訓練の概要	P 10
(2) 生徒が主導する訓練概要【各訓練の様子】	P 12
(3) コース別学習の概要	P 13
① 平成27年度のコース別学習	P 13
② 平成28年度のコース別学習	P 14
(4) 郡山小学校区の小・中学生と住民や行政、小学校教員が中学校へ集団避難 P 15	P 15
(5) その他、協力支援・準備訓練などの様子	P 15
(6) 生徒会が司会・運営する防災教育シンポジウム	P 16
(7) アンケート調査結果と分析	P 17
8. まとめ	P 20
9. おわりに	P 21

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 仙台市立郡山中学校（センダイシリツコオリヤマチュウガッコウ）

住 所： 〒982-0003

仙台市太白区郡山5丁目10番1号

代 表 者： 校長 高橋 教義（タカハシ ノリヨシ）

担 当 部 署： 防災教育（ボウサイキョウイク）

担 当 者 名： 防災主任 三浦 敏（ミウラ サトシ）

電 話 番 号： 022-248-0071

F A X： 022-304-1349

E - m a i l： [Koriyama@sendai-c.ed.jp](mailto:Koriyama@sendai-c.ed.jp)

U R L： <http://www.sendai-c.ed.jp/~koriyama/>